

「山口県公立小中学校事務職員研修会第3回研修大会要項」(1970年代各種団体2881)



ファイリング事始め

《いつから?》

文書の処理が終わる度に、フォルダやクリアファイルに入れて整理・保管する「ファイリングシステム」という仕組み、職場や家で使っている方もいるでしょう。現在も、オフィスの文書整理法として多くのhow to 本で紹介されているファイリングシステムですが、いつ頃から日本で使われ始めたのでしょうか。

日本に紹介されたのは昭和前期のことです。しかし、一般に導入されるようになったのは戦後、昭和23年(1948)に政府がアメリカに倣ったファイリングシステムを勧奨してからのようです。

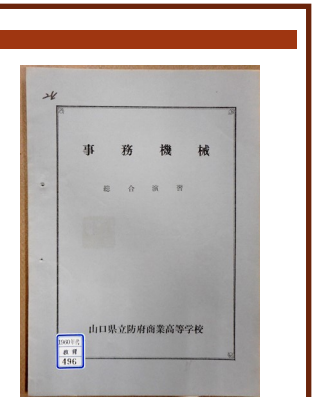
山口県でも、昭和30年代後半から「業務改善」として、事務作業の効率化・合理化が目指されます。その一環として、文書管理の方法も整備されました。この時期、ファイリングシステムを導入するかは別として、県内のさまざまな組織が、文書を効率的に処理・保管・活用する方法を検討していました。

《学校事務の現場で》

県内の学校でも文書管理方法は研究されました。高等学校については県の方式に準じるということで整備が進みましたが、小中学校では、各自治体ごと、学校ごとに検討されました。上の写真は、昭和46年8月におこなわれた、山口県公立小中学校事務職員研修会第3回研修大会の要項および資料集から、徳山市立徳山小学校におけるファイリングシステムをベースとした文書管理の取り組みについての報告です。

この報告の冒頭で、「事務の中心的な役割は情報の処理であり、その情報の処理に際して中軸となるのが文書であり」と、事務職の性質とそこにおける文書の占める位置を措定しています(以下の引用も同報告)。

このような認識のもと、文書の動きや種類を整理し、徳山市および同市立学校における文書の管理保存方法としてファイリングシステムに言及しています。



「事務機械 総合演習」(1960年代教育496)

防府商業高等学校で1960年代に作成された、事務のテキストです。総合演習と銘打ってあるように、ひと通りの知識・技術を学んだ後のまとめのテキストでした。

この中でも、ファイリングについては既習のものとして出てきます。当時事務職を目指す人にとっては、タイプライターや複写等による帳簿の一括作成法(ワンライティングシステム)と並び必須の技術でした。

当時、「徳山市においては本格的なファイリングシステムをとりいれていないが、数箇所に分散された文書を分散された箇所管理保存して」いたそうで、報告者はこれを「分散式集中管理」と呼んでいました。

何か歯切れのよくない言い回しなのは、アメリカ式のファイリングシステムを実際に導入するにあたっての障壁の多さによるのでしょう。

ご存知のとおり、ファイリングシステムには専用のフォルダやキャビネット、仕切り板等が必要になります。下写真のように、初期の書籍で紹介されているアメリカ式のファイリングシステム実施風景のイラストでは、キャビネットがずらりと並んだ部屋が描かれていますが、これは、少なくとも当時の日本ではあまり現実的とはいえない設備です。そのため、キャビネットを複数の場所に分けて置かざるを得なかったようで、それゆえの「分散式」なのでしょう。

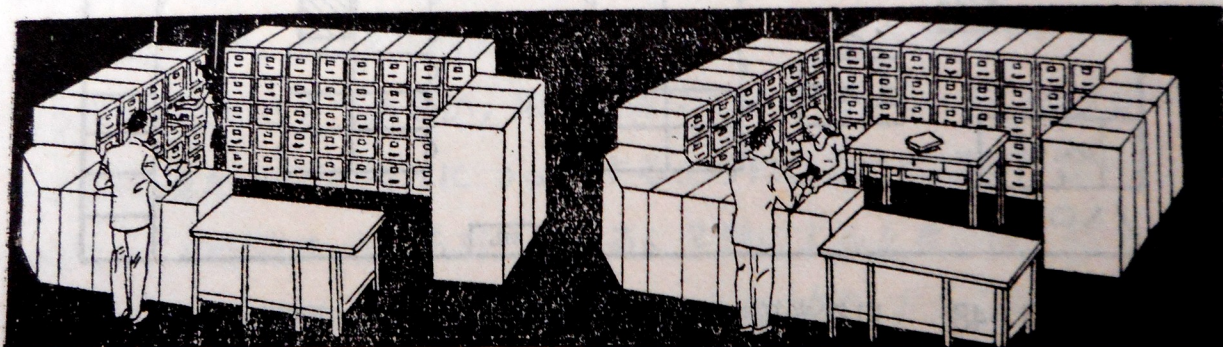
ファイリングシステム導入に関わる報告の中には、フォルダやキャビネット等の購入・設置・取扱いへの言及もままみられます。今までのやり方と大きく違うため、現場の戸惑いも大きかったようです。

《学校事務職員、更なる苦勞》

さて、ある程度システムが整ったら、学校事務職員には、次の、最大の？仕事がありました。運用にあたって、事務職以外の人にかかしてシステムを守ってもらうか、です。

「山口県公立小中学校事務職員研修会第二回総会並びに研修大会要項」(1970年代各種団体2880)の、防府市立佐波中学校の報告では、「学校の教職員は、公文書取扱いにふなれである。教職員を公文書取扱いに、なれさせなければどのような文書管理の改善も意味をなさない」と、歯に衣着せぬ言葉が綴られています。

情報を管理するために新しい方法を導入して、それに関する新しい情報が増えて、それを共有し、動かすためにまた新たな情報が…。情報を管理しているのか、情報に振り回されているのか。情報を管理することの難しさというか、皮肉というか。何とも複雑な気分になる話です。



92 ヒキダシ (36.8万枚)

5段 キャビネット	16
3段 キャビネット	4
コーナー ユニット (スミオキ)	2
机	1
必要面積	4.8m × 3.6m = 17m ² (16尺 × 12尺 = 5坪)

110 ヒキダシ (44万枚)

5段 キャビネット	19
3段 キャビネット	5
コーナー ユニット (スミオキ)	1
机	1
必要面積	4.8 × 4m = 19.2m ² (16尺 × 13尺 = 5.8坪)

図 49 小さいファイル室

▲ 『ファイリングシステム』(日本能率協会、1950、山口県立山口図書館蔵)で紹介された、保管場所のイラスト。先進的なシステムへの憧れを掻き立てる、スマートなオフィスが描かれていますが、これだけスペースに余裕のある学校が当時どれだけあったのか…。これで「小さいファイル室」なのですから、これをそのまま導入しようとした人は途方に暮れたのではないのでしょうか。同書の中でも、全部の文書を一か所に集約してしまうとやはり不便なので、アメリカでも部署毎にキャビネットを備えるようになっている旨が書かれています。